

# 長野県革新懇ニュース

2018年3月号  
発行日3月10日  
会費 2,000円  
購読料 3,000円(送料込)  
振替 0510-3-15971

226

発行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会  
(長野県革新懇) 発行人: 山口光昭 編集長: 高村裕  
〒380-8790 長野市県町593 高校教育会館内  
TEL: 026-234-1231 FAX: 026-234-2219 メール: mail@nagano-kakushinkon.com

====今号の主な記事====

- 1面 手塚孝典さんインタビュー
- 2面 1面続き、近現代信州の歴史回廊
- 3面 「2・4事件」85周年記念集会  
平昌オリンピックに思う 栗岩恵一さん
- 4面 「『きけ わだつみのこえ』上原良司のこと」堀井正子さん  
映画評論「DETROIT」  
読者のこえ・各地の動き、漢字パズル

長野県革新懇

検索



1965年松本市生まれ。同志社大学文学部卒。広告代理店勤務を経て1997年信越放送入社。制作部ディレクターとしてSBCスペシャルなどを担当。『刻印～不都合な史実を語り継ぐ～』で日本民間放送連盟賞最優秀賞、『残された刻～満州移民・最後の証言～』で地方の時代映像祭優秀賞、『遠太郎のひまわり～日中友好の明日へ～』でギャラクシー奨励賞など受賞。

## 満蒙開拓を振り返ることは

## 地元放送局の現代的責務

てづか たかのり さん

(信越放送ディレクター)

現代にもつながる  
満蒙開拓の歴史の教訓

Q 先頃放映された『決壊』(左  
囲み参照)を観ましたが、手  
塚さんが満蒙開拓問題に取り  
組まれてきた理由をお聞かせ  
下さい。

信越放送に勤め始めた30代  
の頃は中国残留孤児の問題が  
話題になっていて、最初に取  
材したのが中国残留孤児の子  
孫の皆さんでした。取材して  
いくと、中国では侵略者の子  
どもだと言われ、帰って来た  
ら中国人だと言われて蔑まされ、差別を受けてきたことを  
知り、戦争が僕らの身近な所  
でまだ生々しく残っている  
ことを感じました。それが  
2002年頃ですが、その取  
材を通して、何故、彼らのよ  
うな人たちが生まれたのかを

考えたいと思ひ、満蒙開拓に  
ついて調べるようになりまし  
た。飯田・下伊那で体験者の  
聞き取りや証言を記録してい  
る市民の方々がいたので、そ  
ういう皆さんを通じて体験者  
の語りを聞くようになりまし  
た。その時に、今回番組にし  
た(豊丘村)河野開拓団のこ  
とを聞き、本当にショックを  
受けました。開拓団の村人が  
集団自決して、送り出した村  
長も自死してしまつた。それ  
が戦後長い間全く語られてこ  
なかつたということで、根深  
いものがあるんだなと感じ、  
満蒙開拓の問題を取材するこ  
とは長野県の放送局の責任だ  
と思ひました。

と感じました。結局犠牲にな  
るのはそこで暮らしてきた  
人々で、国民に犠牲を強いる  
国策とは何か、という疑問が  
沸いてきました。  
満蒙開拓で帰ってきた人た  
ちは、お前たちは好きで行つ  
たんだからと非難されたわけ  
ですが、原発の避難者も、原  
発誘致して良い暮らしをして  
きたらうと心無い言葉を投  
げつけられる、同じ事が現代  
でも繰り返されていることに  
愕然とします。結局、戦後の  
日本社会は戦争や国策の過ち  
の責任を問うてこなかった、  
そのことに向き合つてこな  
かつたと思うんですね。その  
結果、再び棄民という結果を  
招いてしまつた。満蒙開拓と  
いう過去のテーマを扱ってい  
るけれども、それは今の国や  
社会のあり方を考えることで  
もあると思っています。

自らの責任に真摯に  
向き合った胡桃沢盛

Q 番組で焦点を当てている旧  
河野村の胡桃沢盛村長につい  
てはどのようにお感じですか。  
日記を読むと、大正デモク  
ラシーの時代に青春を過ごし

民教協スペシャル『決壊』祖父が見た満州の夢』

制作/信越放送、ナレーター  
/吉岡秀隆、ディレクター/  
手塚孝典、プロデューサー/  
池上英樹、雪竹弘一  
戦時中、長野県の河野村  
(現・豊岡村)で村長を務め  
た胡桃沢盛。国策で送り出し  
た満蒙開拓団の内73人が敗戦  
後の満州で集団自決し、後に  
自らも命を絶つた。孫の伸さ  
んは、祖父がどのように戦争

リベラルな思想に触れて、社  
会の矛盾や農民の窮状などに  
鋭く目を向けているし、国に  
対する批評精神もあつたと思  
います。その胡桃沢盛がどう  
して戦争に荷担してしまつた  
のか、最初は疑問に思つたん  
ですが、盛自身は変わってい  
ないと感じるようになりまし  
た。日記には、正しく在りた  
いとずっと書いていて、それ  
は貧しい村、農民を救済す  
ることだったり、経済的にも  
ちゃんと自立して、皆が生き  
ていけるような村をつくりた  
いという願いだつたと思うん  
です。それが、当時の国の政  
策と重なつてしまつた、ある  
いはうまく国の思惑に絡め取  
られてしまつた。盛自身は最  
後まで自分のやつていているこ  
とは正しい事だと多分感じてい  
たんだと思います。  
しかし、それが敗戦で取り  
返しのつかない大きな過ち  
だつたということに気づかさ  
れる。その時の悔恨の念、苦  
しみというのは、もの凄いの  
だつたらうなと思ひます。  
当時の多くの指導者は、自分  
の責任については軍国主義の  
時代だつたからということ  
で、蓋をしたり、目を背けて  
きたわけですが、盛はそれが  
できなかった。自分のしてし  
まつたことを無かつたことに  
はできなかったわけですが、僕  
はその突き詰め方は凄いなと  
思ひます。どう理由であ  
れ自分の決断で行つた責任を  
なんとか取ろうとしていた。  
人間としても政治家としても  
正しくあるう、誠実であるう  
として、その苦悩と向き合つ  
たと思ひます。

身内だからこそ  
祖父の過ちを直視

「満蒙は日本の生命線」と  
いう考えは、明治以降の国づ  
くりと大きな関わりがあつ  
て、当時は一義的にはソ連に  
対する警戒感があつて出てき

Q 伸さんは、その経緯をどう  
感じられているのでしょうか。

伸さんは長らく集団自決や  
祖父の自死ということを知ら  
なかつたわけですが、知つたの  
はおそらく30代だつたと思ひ  
ます。その時には事実を受け  
止めきれず、長い間、向き合  
えてこなかつたようです。そ  
れが、満蒙開拓平和記念館で  
自分の体験やお祖父さんに対  
する思いを初めて語つたこと  
をきっかけとして、お祖父さ  
んのことに向き合えるようにな  
つたと話されていりました。  
戦争体験者と同じように、伸  
さんも語るまでには長い時間  
が必要だつたと思ひます。語  
り始めたときに、それを真剣  
に受け止めてくれる人たちが  
いることを知り、少し前に進  
めたんじゃないでしょうか。  
日記を読みながら、祖父  
への愛情を深めていく一方、  
知つていけばいくほど怒りも  
沸いてくる、なぜ戦争に加担  
してしまつたのかとか、悲し  
い思ひになつたりしたと思ひ  
ますが、身内だからこそ祖父  
の過ちとちゃんと向き合つ  
て、「なぜ間違つたのか」と  
いうことを伝えていかなくて  
はならないという心境に至つ  
たのだと思ひます。

単純な正義や善意が  
正しいとは限らない

Q 胡桃沢盛の生き方を通して  
触れていたただよふなことが  
ありますか。

【2面に続く】